

陸上自衛隊に対する 協力

偕行社事務局長

山越 孝雄 陸自75

7月、陸上自衛隊宇都宮駐屯地の中
央即応連隊の隊員約70名が、『海賊対
処行動支援隊』要員として、その活動
拠点があるアフリカ東部ソマリア沖に
面したアデン湾のジブチ共和国へ派遣
された。

当駐屯地における出発行事では、岩
上隆安連隊長が、「立派に任務を果た
してこい」と訓示し、同席した多くの
派遣隊員家族、残留同僚隊員や自衛隊
協力者の方々が隊員を激励した。

偕行社は、栃木県偕行会藤森篤会長
に出发行事への参加をお願いし、派遣
隊員を激励して頂いた。

自衛隊は、海賊対処法（平成21年7
月施行）に基づき、アデン湾の海域を
通行する船舶の護衛を実施する派遣海
賊対処行動水上部隊（護衛艦2隻）を
アデン湾に派遣するとともに、広大な
この海域における海賊の監視警戒を行
う派遣海賊対処行動航空隊（固定翼哨
戒機2機）をジブチ共和国（ジブチ国
際空港北西地区に活動拠点を整備して
運用している）に派遣している。

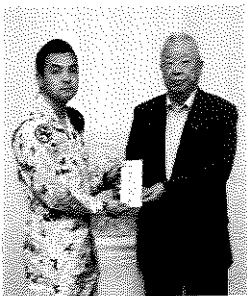
アデン湾は、機関銃やロケット・ラ

ンチャーなどで武装した海賊による事
案が多発・急増している海域であり、
年間約1600隻の日本関係船舶が通
行するなど、日本の暮らしを支える重
要な海上交通路である。

今回派遣された中央即応連隊の隊員
は、『海賊対処行動支援隊』の一員とし
て、夏の最高気温が50度を超す厳しい
環境のもと、24時間体制で活動拠点及
び哨戒機等の警備の任務に当たる。

中央即応連隊の隊員の果たす役割は、
日本の安全保障にとって極めて重要で
ある。一方、このような国際貢献活動
の任に当たる隊員にとって、家族はも
とより国民の理解と感謝は、心の拠り
所であり活動の原動力となると思う。

偕行社は、一国民として、また陸上
自衛隊OBの組織として、国際貢献活
動のみならず、災害派遣活動や平素の
教育訓練などにおいて、各地偕行会を
通じて、地方の陸上自衛隊の部隊等の
活動に対する激励や支援など、陸上自
衛隊に対する協力を強化していきたい
と思う。各地偕行会の御協力を宜しく
願います。



藤森会長からの
激励品贈呈